



このまちがもっと、このまちらしく輝くためのソウゾウ開化…  
「はっち」が贈る、おいしい情報。

馬と暮らす  
生活の中の馬と人

祭りの馬たち  
八戸三社大祭と騎馬打毬

はっち特派員だより・馬の楽しみ方いろいろ  
八幡馬つぶ・馬にまつわる楽しみ方



## hacchi event program イベント情報

\*が付いているイベントは、はっちの自主事業です。

### \*■デーリー文芸天位入選作品 遊書 杉本敦子・色紙展 PARTV

7月1日(金)～7日(木) 10:00～18:00

八戸市在住の書家・杉本敦子さんが、デーリー東北新聞社の文芸欄の天位入選作品を色紙作品にしました。

### \*■はっちの七夕

7月9日(土)・10日(日) ロックバンド2Daysライブ

16日(土) たなばた茶会

16日(土)・17日(日) 夏のブイベース

(八戸を代表するシェフが集合し合作ブイベースを提供)

18日(月・祝) まるごとこどもはっち夏まつり

その他7月1日(金)～18日(月・祝)の期間中、七夕市民飾りつけ展示や短冊飾りの展示など盛りだくさん。

### \*■ものづくりスタジオ企画 夏休みキラキラワークショップ

7月24日(日) 10:00～15:00

はっちのものづくりスタジオの夏休み企画！裂織の花瓶敷きやフェルトの小物入れ、アロマグッズなどのワークショップを体験できるほか、この日限定のオリジナルフードを提供。

### \*■お祭り in はっち

7月29日(金)～8月15日(月)

八戸三社大祭山車展示やパネル展、創作和紙人形展示のほか、小太鼓体験など盛りだくさん！

8月2日(火)には、加賀美流騎馬打毬観戦ソアを開催。

参加料：500円 ※要予約(定員：30名)

### ■地方創生実践塾 in 青森県八戸市 市民活動の核「はっち」を起点とした 中心市街地活性化！

8月5日(金)～6日(土)

5日 13:30～18:30 / 6日 9:10～16:15

まちなかの活性化に取り組む八戸市の事例から、実践的な賑わい創出の手法を考えるセミナーを開催します。

参加料：10,000円

対象：地域づくりに興味のある方

定員：40名 ※申込締切：7月22日(金)

問合せ：一般財団法人地域活性化センター

地域支援業務課 03-5202-6136

### \*■はっちのおばけ屋敷「メドツ伝説～第3章～」

8月12日(金)～14日(日)

①13:00～15:00 ②15:30～17:30

料金：100円

### ■DEVID MATTHEWS With WILD WIND BIG BAND

8月26日(金) 開場 18:30 開演 19:00

デビッド・マッシューズさん(マンハッタンジャズクインテットのリーダー)をゲストに迎えてのビッグバンドコンサートを開催！

料金：3,000円

問合せ：窪田 090-4312-1919

### ■おはなし隊キャラバンカー こどもはっちにやってくる！

8月28日(日) 14:30～15:30

全国を旅しているおはなし隊キャラバンカーがはっちにやってきます。キャラバンカーの見学後は、こどもはっち内で「おはなし会」を行います。

問合せ：こどもはっち 0178-22-5822

### \*■和日カフェ ～日本文化に親しむ日～

8月21日(日)・9月18日(日)

毎月第3日曜日は、日本文化に親しむ日。8月には、的に向かって扇を投げ、得点を競う投扇興体験などを、また、9月にはいけばな体験やお茶席を開催します。

### \*■ストリート投げ銭ライブ in はっち

7月27日(水) 厨二病ナイト(アニソン・コスプレ・ボカロ)

8月24日(水) Duo PIACERE(クラシック・ディズニー)

9月14日(水) Old Ages(ポピュラー)

28日(水) 鈴木操良慈(葬)

1階はっちひろばがストリートライブ会場に变身！

開演：19:00

問合せ：たまに庵の一歩 0178-43-3937

## hacchi news はっちニュース

### ■みろく横丁リニューアルオープン

八戸市中心街の「三日町」～「六日町」をつなぐ屋台村「みろく横丁」が開業14年目を迎え、第5期として平成28年4月21日にリニューアルオープンしました。

今回は新店舗が6軒、また初めての試みとなる禁煙屋台が3軒開業しました。

今や八戸の観光名所というだけでなく、新鮮な魚介類や地元食材を使った料理を提供してくれる場として、市民にも人気の「みろく横丁」。人情とぬくもり溢れるおもてなしを堪能してください。



〈はっち情報発信中!!〉

https://www.facebook.com/hacchi8

https://twitter.com/hacchi\_staff

iPhone 無料アプリ  
i8nohe(あい・はちのへ)

その他各社新聞、コミュニティラジオ BeFM でも情報発信中です。

## street event まちなか情報

### ■「はちのへホコテン！」にまちぐみ屋台が登場！

まるごと1日楽しめるイベントや出店がいっぱい「はちのへホコテン！」に、八戸を面白くする市民集団「まちぐみ」が出店します。

昨年度、まちぐみで考案した南部せんべいのパッケージデザイン。オシャレで楽しい新パッケージの南部せんべいが買えるのは、はちのへホコテンだけ。まちぐみグッズも販売します。

あわせて熊本地震復興支援への募金活動を行います。「5年前、全国から支援していただいた東北から、寄り添う気持ち、そして感謝の気持ちを届けたい。」と山本耕一郎組長。

〈まちぐみホームページ〉http://machigumi.main.jp

〈まちぐみブログ〉http://machigumi.main.jp/blog/



## information 市内施設情報

### 八戸市美術館

■101 フジフィルム・フォトコレクション展

―日本の写真史を飾った写真家の「私の1枚」―

7/16(土)～8/21(日)

国内外で高い評価を受けた写真家101名の写真101枚で構成された「フジフィルム・フォトコレクション」。その写真すべてを展示し、日本写真史の変遷や軌跡を辿ります。



奈良原一高  
「アメリカ・インディアン村の二つの  
ゴミ缶<消滅した時間>より」1972

① 9:00～17:00(受付は16:30まで)

② 7月19日・25日・8月8日・15日

☎ 0178-45-8338

📍 http://www.city.hachinohe.aomori.jp/art/

### 八戸市博物館

■夏季特別展「かっぱ展」

7/16(土)～8/21(日)

かっぱが描かれた書物や絵図、かっぱの手のミイラ、「メドツが出るぞ」看板など、かっぱと人間の関係についての関連資料展示のほか、期間中は講演会やワークショップも開催。



「メドツ (かっぱ) が出るぞ」  
注意喚起看板

① 9:00～17:00(入館は16:30まで)

② 7月19日・25日・8月8日・12日

☎ 0178-44-8111

📍 http://www.hachinohe.ed.jp/haku/

### 八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

■開館5周年記念特別展

「山の縄文世界 - 中部高地の縄文時代 -」

7/23(土)～9/4(日)

開館5周年を記念し、縄文文化最高峰の至宝とされる、長野・山梨を中心とする中部高地の出土品を展示。8月27日(土)には、信玄公宝物館長 小野正文さんの考古学講座を開催。



山梨県南アルプス市跡物師屋遺跡出土  
「土偶」縄文時代中期 重要文化財

① 9:00～17:00(受付は16:30まで)

② 7月25日・8月8日・12日・22日・29日

☎ 0178-38-9511

📍 http://www.korekawa-jomon.jp/

八戸ポータルミュージアム「はっち」は地域の資源を大事に想いながら新しい魅力を創り出すところ。まちづくり、文化芸術、観光、ものづくり、子育てを軸とした活動をサポートする多様な設備を備えています。

八戸ポータルミュージアム はっち http://hacchi.jp

TEL 0178-22-8228 FAX 0178-22-8808

〒031-0032 青森県八戸市三日町 11-1

開館時間／9:00～21:00 ※こどもはっち 9:30～16:30

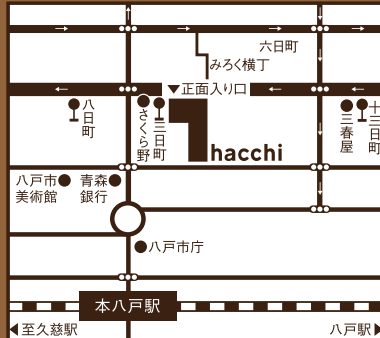
休館日／毎月第2火曜日(祝日の場合その翌日)、12月31日及び1月1日

はっちリレーショナルプレス【はちみつ】vol.24

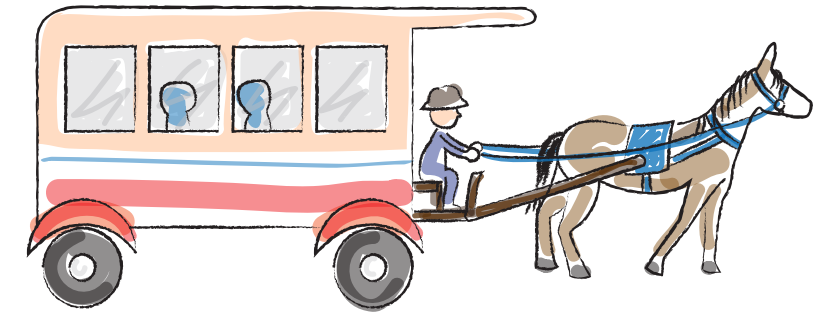
発行：八戸市 まちづくり文化スポーツ観光部 八戸ポータルミュージアム 発行月：平成28年6月

表紙協力：(株)八幡馬

【交通のご案内】  
バス／八戸駅東口からバス八戸市中心街方面行き[約25分]  
八戸中心街ターミナル(八日町)下車すぐ  
ＪＲ／八戸駅からJR八戸線本八戸駅下車[徒歩約10分]  
航空機／三沢空港から八戸市内シャトルバス[約55分]  
フェリー／八戸港フェリーターミナルから車[約15分]  
車／八戸駅から車[約20分]  
※一般来館者の駐車場はございません。  
お近くの有料駐車場をご利用ください。



昭和30年代、バスも走っていましたが、馬車が身近な乗り物として利用されていました。当時はトテ馬車と呼ばれており、10人乗りくらいの大きさでした。



雪が積もると荷物を運ぶ荷馬車は走れなくなるため、冬の間は馬ソリを使っていました。

昔は農家のほとんどが農耕馬を飼っていました。そうした中で種差小学校に通う子どもたちは登校時、馬と一緒に家を出て種差芝生へ放牧し、下校時に馬を連れて家に帰っていたそうです。ピクニックに来た観光客らしい親子連れに、放牧された馬が草を食みながら自然に近寄るくらい、馬も人もお互いが身近な存在でした。



八幡馬は、木材から盆や碗を作る木地師が子どもの玩具に作ったのが始まりと言われてます。台車に乗って紐で引っ張る玩具もあります。



また、櫛引八幡宮のお祭で売っていたことから、縁起物の置物としても一般家庭に普及し、現在に至ります。



南部地方では、母屋と馬屋をL字型に配置する、馬を飼う農家独特の建物は、一般に「南部曲屋」と呼ばれて有名ですが、八戸地域の農家では母屋と馬屋を一直線に配置する「直家・すごや」が一般的でした。



馬肉料理は桜鍋のほかに馬刺もあります。赤身のほか、タテガミ（コーネ）という白い部分も食べます。

「完全アウェイから転機が訪れた」  
私は3代目ですがもともと代官山のアパレルメーカーで営業をしていました。三沢市出身の私が初めて八戸に住み、いち社員としてのスタートをきったのが28歳のとき。当時は職人見習い扱いだったので、帳簿も見せてもらえず・・・  
数年後、専務となりましたが売上は落ちる一方。社内改革をしようとしても当時の社員は職人気質の年輩者ばかりで受け入れられませんでした。私もやる気を失って、正直腐っていた時期がありました。

「これからの想い」  
これから50年後、100年後になっても八幡馬が後世に残っていくように、八戸と馬の関わりにはじまり、八幡馬の歴史や意味などを、小学校の八幡馬絵付け体験の際に話しています。黒い馬が親馬で赤い馬が子馬である意味は、親から子への愛などとても大きいですが、理解してくれば、いつの日か必要として購入し、八幡馬を作りたいという人間が出てくるかもしれないと思っています。



## 生活の中の馬と人

遥か昔から洋の東西を問わず、馬は人々の生活には欠かせませんでした。交通・流通手段が車に変わる昭和30年代後半まで、馬は私たちの足となり、まちなかに馬がいるのはありふれた風景でした。

監修 / 八戸市埋蔵文化財センター  
是川縄文館 館長 古館光治



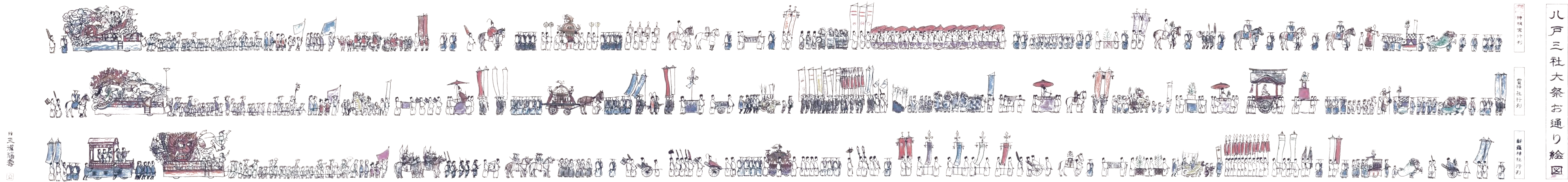
岩手県北から青森県南にかけて、「戸（へ）」のつく自治体名が八つある。それぞれの地域が歴史の中から選んだ地名である。四戸は無いが、古い記録には残されている。この「戸」地名は全国的にみても特殊な地名として知られる。一戸から九戸までの場所を地図で順に見ると時計回りになる。この一戸から九戸の地域の全体は「糠部（ぬかのぶ）」と呼ばれ、糠部から外の地域へ出る道には東西南北の「門（かど）」も設けられていた。そうしたことから、この地名について研究者は「九戸四門の制」などと呼ぶ。その糠部は、平泉藤原氏に関する記録に駿馬の産地として名を残す。  
日本では5世紀の遺跡から馬の骨が出土しており、この頃には人の側にいたようである。武蔵や甲斐、信濃などの馬産地から都に馬が持ち込まれるが、次第に陸奥産の馬に注目が集まるようになり、陸奥の中でも北に行くほど良馬の産地とされ、11世紀になると貴族や武将たちが競って糠部の馬を買い求めるようになる。冷涼な糠部の気候は、農業生産よりは馬産に適していたのだろう。陸奥国の支配者は馬の支配者でもあった。糠部の地名はそうした支配者の時代に短期間に名付けられ、糠部の一戸から九戸で産出された馬は「戸立ノ馬」としてブランド化した。機械的で人工的な「戸」地名は、そうした「馬の特区」の名残ともいえる。

撮影 / 柳町幸博  
文章 / 八戸市埋蔵文化財センター  
是川縄文館 館長 古館光治

「八幡馬を作り始めた人の末裔と思われがちですが」  
会社の初代社長である祖父は、もともと三沢市で製材所を営むかたわら、八戸では住宅関連の間屋を経営していたんです。そんな祖父が八戸ならではの土産品として八幡馬製造を機械化して大量生産する会社「八幡馬製造合資会社」（昭和29年創業）を作りました。それがこの会社の前身です。

「広がる八幡馬」  
カネイリオリジナル八幡馬は、フリー系雑貨店などのセレクトショップで販売されたので、おしやれなうえりやすかったのだと思います。しかも作り手にスポットを当てた形で紹介をしてくれたので、それが広がって各社からオリジナル製作のお話をいただくようになりました。特に漫画「北斗の拳」とコラボした「黒王号八幡馬パレード」が印象的です。ケンシロウの強敵ラオウの愛馬ということは、ファンなら誰でも知っていると思います。ちゃんと眼帯パレードも作りましたよ（笑）。





江戸三社大祭お通り絵図

神輿行列

電燈行列

新羅神社行列

## 祭りの馬たち

八戸と馬は切っても切り離すことができません。それは八戸三社大祭でも同じことです。八戸三社大祭の神社行列では、神社の神輿山車を引く馬や、柵をつけた馬、騎馬で続く武者押しや、騎馬の殿には寺社奉行役など、多くの馬が活躍します。

行列の形は、八戸三社大祭が始まった頃よりは多少変わっているでしょうが、昔から馬が活躍していたのです。また、はつちの2階では、イラストレーターの三浦福寿さん（故人）が八戸三社大祭のお通りの神社行列の様子を長さ6メートルの絵図にした「三社大祭お通り絵巻」が常設展示されています。20年ほど前から八戸三社大祭の行列を描き続けてきた三浦さん。



八戸三社大祭

約290年続く国指定重要無形民俗文化財。7月31日の前夜祭から8月4日の後夜祭までの5日間、27台の山車が中心街で展示・運行され、豪華絢爛な時代絵巻が繰り広げられます。

## 騎馬打毬とは



騎馬打毬はいわゆる日本版「ポロ」で、プレーヤーを騎士と呼びます。騎士の装束は、赤・白それぞれの色に塗られた笠（かぶさき）と、水色の「素袍」と「むかばき」が正装となります。騎士のほかに主審の役割を担う見定め奉行や毬奉行と呼ばれる事務方、毬奉行の指示によって太鼓や鐘を鳴らす相図方、試合前にボールを配置する毬童子など、複数の人々によって運営されます。ルールは、赤・白それぞれ4騎に



相図方



毬童子

現在、日本国内で騎馬打毬は八戸と宮内庁、山形県にしか残っておらず、それらの中でも、八戸の加賀美流騎馬打毬は藩政時代からその伝統が守られ、最古の形を残しているといわれています。八戸の騎馬打毬は、藩主が流馬などと一緒の実践的な武芸として騎馬打毬を奨励したということもあって盛んに行われ、それ以来約190年間に渡ってこの伝統を守り続けてきました。昔からの伝統をそのまま受け継いでこれら馬産地であり、近代においても馬を生産していたことなどが挙げられています。

分かれた合計8騎で行われ、馬上から毬杖でゴールである毬門へ投げ入れます。赤が入れば鐘を、白が入れば太鼓を叩いて得点を知らせ、4つのボールを早くゴールしたほうが勝利となります。勝利したチームは勝鬨（かちどき）をあげて表彰されるのに対し、負けたチームは下馬し、笠を脱ぎ、たすきも外して引き上げるようになります。そのあたりの厳しさは、武士の訓練の一環として始まったことを表わしています。

### 2 馬の食事

馬は草食動物なので放牧中に牧草を食べますが、激しい運動をする馬は力（パワー）消費が大きく、牧草だけではそのカロリーを賄いきれず痩せてきてしまいます。そのため麦や燕麥などの穀類を餌として一日1回程度与えるのが一般的。

また、馬はニンジンが好きというイメージがありますが、中にはニンジン嫌いの馬もあり、一般的にニンジンよりもリンゴのほうが人気があります。もっと甘いハチミツや角砂糖を与える場合もありますが、やはり甘い物の摂りすぎは糖尿病の原因になるようです。

### 3 馬の寿命と健康

馬の寿命はおおよそ30歳、まれに35歳くらいまで長生きする馬もあり、人間に換算すると約100歳!!。ただ、馬も高齢になれば同じで糖尿病や白内障を患うこともあります。さらにインフルエンザにかかるとあるため、競走馬は年に1度の予防注射が義務付けられています。

また、馬の健康のパロメーターはなんといっても毛ツツ。栄養十分で内臓の疾患がなく健康状態がいい馬は艶があり、光って見えるのです。

### 4 馬の歯

馬の歯は、オスとメスで本数が違い、大歯のあるオスが40本。大歯のないメスが36本です。口の中には歯が生えてこない部分があり、そこにハミを噛ませることで歯が伸びます。

なお、馬も人と同じで乳歯から永久歯に生えかわりますが、もちろん虫歯になることがあり、その場合はヤスリで削ったり抜いたりして治療します。さらに高齢の馬は、いわゆる歯槽膿漏（歯ぐき）が抜けることもあるのです。



馬も歯が大事

### 5 馬の感情

ことわざで「目は口ほどにものをいう」といいますが、馬の場合は「目は口ほどに」となるくらい、耳が感情を表わします。例えば、耳を広げているときは興味をもっての証。逆に耳を後ろに倒しているときは、怒ったり警戒しているときで、安易に近づかないようにしましょう。また、馬の耳はたくさんの筋肉で構成され、前後左右にクルクルとよく動きます。今度、馬を間近で見る機会があったら耳をよく観察してみてください。

騎馬打毬に携わるきつかけ 祖父や父が代々、八戸騎馬打毬会の会長だったということもあり、小さいときから何かしら携わっているなあと感じていました。小学校のころには、すでに自分が獣医になると決めていたのですが、それは小さい頃から家に馬がいるという環境だったからだと思っています。現在は父が亡くなり、第20代の八戸騎馬打毬会の会長として跡を継いでいます。

#### 騎馬打毬を続けていくために

騎馬打毬を次の世代につないでいくためには、「人」と「馬」と騎士の装束も含めた「道具」の3つを、確実に次世代につなげていかなければならないと考えています。

まず人ですが、騎馬打毬の騎士となり、奉納打毬を行うためには印可状（現在という免許証）が必要で、もともとは8代藩主南部信真公が印可状を出したのが始まりです。藩主より印可状を出す立場にあると認められた打毬師範が190年前から引き継がれており、祖父から父へ、現在は私がその役割を引き継いで、印可状用の

印鑑を大切に保管させていただいています。

今となつては、その印可状を授与されたのは数人だけに減ってしまいましたが、八戸の「打毬印可状本状」に加え「打毬役附之巻」「打毬之巻」「打毬諸員之巻」「打毬馬場指之巻」の4巻があり、たんに馬に乗る技術があるだけではなく、これからの時代はそうはいかないと考え、騎馬打毬に興味のある人には積極的に参加してもらっています。

また、平成13年からは、市内の小学校で定期的に乗馬体験を開催し、現在まで延べ1万9000人を超える小学生が乗馬を体験しました。ぜひとも乗馬体験をした小中学生の中から未来の騎士が生まれたいです。



昔ながらの装束で参加する騎馬打毬師範の山内さん

#### 一番の課題は道産子の確保

続いて馬についてですが、騎馬打毬に使用している馬は道産子（道産馬）で2チームで8頭、万が一の事態にそなえて10頭は会場に連れて行きます。

試合では、馬の目の前を毬杖がくすたり、馬同士がぶつかりたり、競走馬や乗馬とは違う動きをするので、そういった訓練をしていない馬は使うことができません。また、どんなに早くとも1年以上は訓練に費やすことになりま

すから、若い馬よりも経験値を積んだ、ある程度大人の馬のほうが制御しやすいです。

#### 次の世代にむけて

騎馬打毬を行うのは8月2日の一日だけですが、ほかの364日をかけて馬の訓練を行い、馬の世話や道具の整備を行うという準備があつてこそ一日となります。

騎馬打毬を自分の代で途切れさせるわけにはいかないという思いが、メンバーみんなにあると思います。

続けていくためには、馬を、人を確保していかなければなりません。騎馬打毬に興味がある方はぜひ参加してほしいです。

## 馬のあれこれ

### 1 馬の目

馬は目が昇りきる前から活動をするのがほとんどです。大型の草食動物は一般的に睡眠時間が短い傾向にありますが、馬も例に漏れず一日の睡眠時間は3時間ほど。

立ったままでウトウトと眠るのが普通ですが、疲れたときには脚を投げ出して横になったり、脚を折つてうつうつたりして眠ることもあります。

また、夏場は昼夜放牧といって餌を与えるとき以外は夜になっても馬房に戻さず、放牧したまま冬場はさすがに気温が下がることもあるため、夜間は馬房で過ごすこととなります。

# 馬の楽しみ方いろいろ

八戸地域ならではの、  
馬にまつわる楽しみ方をいくつかご紹介します。

## このへ馬肉料理 バスパック



路線バスを利用しながら、お得に五戸町の馬肉料理を堪能できる企画商品です。チケットを事前にご購入する必要はなく、南部バス（八戸⇒五戸線）で降車時に運転手からクーポンを受け取れば、クーポン1枚につき1名様まで、指定されたお店の馬肉料理を割引料金で楽しめます。

問合せ先：八戸五戸路線バス利用促進協議会  
（八戸市都市政策課）  
TEL：0178-43-9124



## 種差天然芝生地の 乗馬体験



かつて馬の放牧が行われていた種差天然芝生地で行われる乗馬体験です。28年度は7月から9月までの間、6回開催される予定です。インストラクターが手綱を持つ引き馬なので、初心者の方もお子様も、安心して種差海岸の景色を眺めながら乗馬を楽しめます。

場 所：種差天然芝生地  
実施時間：12:30～15:00  
料 金：500円  
問合せ先：種差観光協会  
TEL：090-7067-1207（柳沢）

※各イベントの日程など詳細についてはお問い合わせください

## ラインストーンでかわいく ♡デコ八幡馬



白い小さな八幡馬にラインストーンやカラーペンを使い、装飾を加えることで、自分だけの八幡馬が作れます。

料 金：1人1,900円  
所要時間：約90分  
人 数：1名から5名まで  
催 行 日：7日前までに申し込み  
集合場所：史跡・根城の広場  
問合せ先：公益社団法人  
八戸観光コンベンション協会  
TEL：0178-41-1661

## 【イベント情報】

### ●こどもはっちオレンジデー

ハンディキャップを持っているお子様とご家族のための交流会。

日 時：7月9日（土）9:00～12:30  
会 場：はっち4階こどもはっち内  
参加費：小学生以上100円  
（障がい者手帳・愛護手帳をお持ちの方は50円）  
予 約：不要（団体の場合は要予約）

### ●まるごとこどもはっち はっち全館夏まつり

こども商店街、おみこしかつぎなど、1階から5階まで親子で1日楽しめる内容です。

日 時：7月18日（月・祝）  
10:00～15:00  
会 場：はっち全館  
参加費：無料（販売あり）  
予 約：不要

### ●夏休み特別企画 絵本を作るう

夏休みの思い出に、親子で絵本を作りましょう。

日 時：8月5日（金）～6日（土）  
10:00～15:00  
会 場：はっち5階共同スタジオ  
対 象：小学1年生～6年生  
定 員：親子5組  
参加費：200円  
予 約：7月5日（火）9:30 受付開始

### ●秋冬物のおさがり掘り出し市

毎回大人気！秋冬物のおさがり品が格安で販売されます。

日 時：9月25日（日）10:30～13:00  
会 場：はっち1階 はっちひろば  
参加費：無料  
予 約：不要  
【出展者募集】  
定 員：14組  
予 約：8月25日（木）9:30 受付開始

## new topic 親子どうぶつえんができました



ひみつきち2 ぐうが動物園になりました。  
たくさんの動物たちが親子で待ってるよ。

大臣表彰をいただいたことは、とてもうれしかったです。新聞で報道されたのは4月でしたが、実は3月中旬に霞ヶ関まで行き、表彰を受けてきたんです。こどもはっちを始めたのは5年前ですが、もともと私たちは平成15年からNPO法人として活動していました。その頃から活動の積み重ね、横のつながり、人脈あってこそ活動が評価されたと思っています。今後はもっと市民との架け橋となり、多くの方々の助けになるよう、たくさんの方々と情報交換しながら精進していきたいと思っています。

「好きなことをしているから元気でいられるし、逆に皆からパワーをもらいます」と言う平間さん。こどもはっちのこれから、ますます期待大です。



NPO 法人はちのへ未来ネット代表理事  
平間恵美さん

子どもの育成と子育て家族の支援活動などが評価され、こどもはっちを運営する「NPO法人はちのへ未来ネット」が内閣府特命担当大臣表彰を受賞しました。

◎ 9:30～16:30（1月2日・3日は10:00～16:30）  
☑ 毎月第2火曜日（祝日の場合その翌日）  
年末年始12月29日～1月1日  
☑ 100円（未就学児は無料）  
☎ 0178-22-5822  
🌐 <http://www.kodomohacchi.com>  
※土日祝日などの混雑時には、入場制限（1時間での入れ替え）をさせていただきます。

## 八幡馬っふ

八戸市内には、八幡馬のモニュメントやシンボルが点在しています。  
縁起のよい八幡馬たちに会いに行きませんか？  
いいことあるかも？



## 特派員だより ～その4～

櫛引八幡宮の八幡馬の石像を眺めていると、どこからともなく声がします。  
「八戸市内の八幡馬たちに会いに行きましよう。きつとよいことがありますよ。」  
天高く伸びる杉の林がざわめいて、黒い馬に乗った男の人と、赤い馬に乗った女の人があらわれたら、たくさん鈴と、菊やうみねこ模様の飾りをつけた馬の背中に乗せてもらって、八幡馬を探す旅に出ましよう。

## はっちにもたくさんの八幡馬がいます♪



### 1階カネイリミュージアムショップ

昔ながらのデザインは勿論、カネイリオリジナルデザイン八幡馬や、絵葉書などの八幡馬グッズがここで買えますよ。



### 4階こどもはっち

八幡馬がシンボルマークになっているこどもはっちでは、ポスターがたくさん飾られています。床にも焼き印がしてあります。  
また、おもちゃハウスくれよんでは、車輪付きバージョンのおもちゃも販売されています。



### 1階はっち入り口

なた蛇の一刀彫りで作られた288頭の八幡馬の中には、赤ちゃんを身ごもった馬が2頭いますよ。探してみてください。